大正十年八月五日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
大正十一年七月十四日印刷納本　大正十一年七月十五日發行

13

光

大正十一年七月

第十三號

◇一粒の飯……西田天香
◇女囚監より……在監諸姉
◇椎の木……磯山松男
◇愚かなる父思ふ……松下吉衛

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

◇病める青年……三石勝五郎
◇獨白……八田勝三
◇道徳的要求と個我及び人格……中桐確太郎
◇支光社宣光社だより……遠近兄姉

一燈園◦宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は卽ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し、歸一の大願に參ぜん。

內外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成ニ就大圓覺一

別願　將ニ來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の淸規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に卽して眞道を行じ、「永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

卽ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天園、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎぬ。憾むらくは箇中の消息、もさよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては卽ち無相不二。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一粒の飯

——罪を問はれた『弱き者』の前にて——

西田天香

高い所から話しますのをおゆるし下さい。

皆さんのやうな境遇におありの方々に、私は一度あやまらせていたゞきたいと、かね〲から存じてをりましたのですが、今日こゝで思ひがけなく、皆さんにおあひすることが叶ひ、平生のねがひのきかれましたことを、心からありがたく感じてをります。

私のあやまりたいねがひは、たゞ、こゝでのひよつとした氣まぐれざたや、口先ばかりのお上手で、申すのぢやございません。私は、自分自身のこと、自分のまわりの人々と自分とのかゝはり合ひのこと、又ひろく世間一體の色々な出來ごとなど、つく〲考へてみまして、自分のいたらないこと、わるかつたことに、氣づかせられてからといふもの、どうも今までどほり當り前にしてゐたのでは、落ちつけなくなつたのです。初めは何のかのと自分自身に都合のよい理くつをつけては見ましたが、心のおく底で『お前がわるいのだ、お前こそそのとがめを受けねばならぬのだ。お前のやうなものが何で人の罪をかれこれいはれた義理か？』と自分をたえずしかるやうな聲がいたしまして、どうしても、あやまらずにはをられなくなつてまゐりましたのです。

『さういふお前は、どんなあくじを、はたらいて來たのか？』と、ふしんがるお方もおありのことゝ存じますが、私のはべつだん、法律にふれた罪をおかしたといふわけではないのですけれど、法律にふれるふれないなどは問題でありません毎日なにげなくやつてをるさゝいの事がらにしても、一寸した物いひ爭ひにしても、しづかに自分の心をふりかへつてみますと、先さんにもよくない點があるか知れないが、自分の方にわるい所がきつとあるのです。これは一々例をあげて申

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

すまでもなく、皆さんにしても、ご自分の事をようくお考へになつてごらんになれば、今、申上げてゐる私の氣持を、『ほんとにさうだ。』と同感して下さることゝ存じます。

私は、それで、自分がわるい、といふことに氣づかせられましてからは、人間同志だましあひ爭ひあひをして、ごたく／＼こぢらかつたやうになつた生活をつゞけていつて、この上、罪のうはぬりをするのにたへきれず、一生をあやまりとほしたい、世間の方々たれかれの區別なく、敵であつた人にも味方であつた人にも、ひれ伏しておわびしたい、もし人と爭つたりだましあつたりしなければ生きて行かれないなら死んでもしやうがないと、よいことかわるいことか知れませんが、さうまで思ひつめて、今までの家もすて、ざいさんもなげうちして、見られるやうなこんなすがたになりましたのが、丁度十九年前、數へ年にして三十二の時でありました。

かうなる前の私は、少しは金も持ち、北海道やそこらで、開こん事業こう山事業ほうせき事業などにたづさはつてをりまして、やはらかい物を身につけ、お茶やのめしの味も知らないわけではありませんでしたが、常に心が落ちつかず、たえず金のことが氣になり、何がなし後からしゞう追ひかけられてゐるやうに感じて、しんからくつろいだことなどございませんでした。

ところが、ふしぎでした、一度、罪をあやまりたいねがひをおこして、おわびの生がい、さんげの生活に立たせてもらひましたのに、自分としてはゆめにも思ひがけなかつたことなのですが、人間のことばでは中々いひつくせない、しんみりした、うるほひのある、誰とでもとけあへるやうな、そして又何物にかかんしやし、がつしやうせずにをられないやうな生活が、新らしくうまれて出てきたのです。

私は、ねほりはほり、おわびしようとしましたから、何ごとも罪ほろぼしのためと心えまして、身に叶ひますかぎり、給金も何もほしいなど思ひませんで、たゞその日／＼その場／＼で人樣のお役に立つやう身を扱つたのでございます。すると、大へんよろこばれまして、そつちでも來てくれろ、あつちでも來てくれろ、と、ひつぱりだこのやうにされ、體がいくつあつても足りないほど、忙しいのです。それでゐて、きたいに、心が年中落ちついてどこかにゆとりがあり、以前のやうないら／＼しさは、ちつともないのです。見るやうなこんな男で、中學校にさへあがつたことはないのですから、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いづれろくなお手つだひは出來ないとはきまつてゐますのに、『あんたはかん心な。よくまあさうきばりなさる。』など、たれかれから分にすぎたほめことばを頂だいいたします。こちらとしては、ほめられるやうなものは、何もないのですから、こんなに申されますと、きやうしゆくして了ひまして、拜み返すやうにしてゐます。なんにも世間ふつうのお禮などもらはうとはいたしませんですが、お腹がすけばご供養はおうけ申します。お腹がふくれゝば又はたらくのです。かうしてふれる方とこに心と心としつくりとけ合つて一日一日とくらさせてもらうてるのです。みんな親身の兄弟姉妹のやうな氣がいたします。

それでも初めの五六年といふもの、奇人よばはり、狂人あつかひにされましたので、私もこのみちは自分だけひとりぼつち歩ませてもらふのかしらん。野末に人知れず咲き匂ふ名もない小花も、花は花だ、花たる天分をつくすのには、人に知られると知られないとは別に問題とするにたりない。しかし、その花を見ることが、つかれた人の目によろこびとなるものなら、手うゐにされて持てはやしをうけようと、わるいことではあるまい。もし私のふませてもらうたおわびの道、さんげの生活も、なやみのある心もだえのある人に知られて、このよろこびとこの安らかさを味つていたゞけるなら、さうあつてほしいと祈つてゐました。

ところがあの世界大戰爭のあとをうけて、世の中がひつくりかへるやうなさわぎが、そつちこつちにおきてまゐりましたので、これではたまらんといふことになり、それ／＼せん門の學者智者が一生けん命になつて、このさわぎの本を根絶しにする方法はないかと、けんきうなすつてゐるのですが、未だにこれぞといつて名案も出てはゐないやうです。

このはづみに、私共のさんげの生活――おわびの道――が、世間の注意をひき問題にされ、『むさいふうしてやつてゐるが、落ちついてゐるところを見れば、何かほんとうのものがあるのかも知れぬ。』などいふ考をもつて、此頃は、色々の人がしん切にしらべに來て下さる。京都の東山のふもと鹿ヶ谷といふところに三四十人位はいれる一燈園とよばれる建物があるのですが、そこに私共のやうな『あやまりたいねがひ』をもつて毎日方々さんへお手つだひにあがつてゐるものが百人以上もあつまつて居られます。

こんど、九州四國中國各地の工場、學校、靑年會、婦人會などから、おまねぎがありまして、京都の一燈園で私共のや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

らせてもらうてる實さいを知らせてくれとのことでしたので、仲間のものと一所に方々あるかせられてゐる途中、ごえんがありましてこゝへ寄せていたゞけたのですから、皆さんのご用を何なりとさせてもらひたいと存じてをります。

こゝの教誨師をつとめてゐなさる上木さんには、前に栃木で、やはりかういふ所におはたらきなすつてゐた時、何度かお目にかゝつたことがございますが、こんどの一行中の松下さんが栃木の方で、やはり上木さんとは、べつこんでございましたので、三次の町へきのふ――私よりは一日早くこられ宗藤さんにご厄介になつてゐましたところ、はからずも上木さんのおたづねにあづかりましておどろいたさうですが、その結果、かうして本日大ぜいお邪まするこことになり、私はつい先こくついたばかりですが、松下さんらは、けさ早くからこちらへまゐつて、ふきそうじ草むしり不淨きよめなどさせていたゞいたさうです。まことにありがたうございました。私もこのお話のあとで、ほんのかたばかりなりと、托鉢をさせていたゞかうとねがつてゐます。

こんなしだいで、私は皆さんに對してあやまりの實をあげることさへ叶ひますなら、お話の方は第二でよろしいのでございますから、どうぞ心やすう親類あつかひにして尙しばらくおきゝ下されば仕合せに存じます。

私が前の生がいをすてゝ、今のやうなすがたにかはつて間もないこと、大阪のある會社がうまくいかないのでその整理をしてくれろと、友人の紹介でおたのみをうけたことがあります。まじめなおたのみは何でもうけることにしてゐますので、私は會社にまゐりました。その時もやはりこんなふうをしてゐたものですから、あひに出てゐらしつた社長さんは、あん外だといふ顔でしばらくぢつと私を見てゐられました。私はしひてじして應接間には入らず、そこの女工さんがマッチばりをしてゐなさるあまりきれいなとはお世じにもいはれない部屋へいれてもらつて、女工さんのお手つだひを始めました。社長さんはいやおうなく私についてゐらしつて、そこで色々會社のありさまなどきかせていたゞき、私の信ずる整理のし方、さうあせつて、もうけずとも會社の立ついき方について、何やかや申上げてをりましたところ、突然だれにきいてきたか、ある親類のもてあまし息子が私をたづねてまゐつたのです。

『兄さん！　こんどこそ改心するから、何か仕事をさしておくれ。石にくひついてもきつとやりとほすから。』と、いふのですから、又かと思つて、別だん深くも考へずに、

『そんなら、石にくひついてごらん。』といひ放つたものですから、その息子は、むつとして返事もせずにかへつていつて了ひました。

私は、これはいひすぎたなと思ふと、自分のつゝしみの足りなかつたことが心をとがめ、親類知人から爪はぢきにされてをる、着のみ着のまゝの彼の身の上を考へると、折角たよられた自分として、さりとはあまりに不人情無責任なとりあつかひをしたものと、どうも落ちつけなかつたものですから、おわびの心もちで、そのまゝそこから、私は道ばたに立つてでしたのであります。身についたものは、ゆかた一枚とほそいへこ帯とそれに扇一本きり。錢は一文も持たずでした。

今の息子と、うんめいを共にしようと、かくごして、彼のいつたと思はれる方へ足をはこびましたが、ついにそれらしいすがたは見あたりませんでした。その日は、大阪市中を足にまかせ、あつちこちとたづねまわつて、たべるみちを求めましたが、このみすぼらしいなりをした紹介人もなにもない、えたいの知れない男のことを、たれ一人やとつてくれるといふものはありませんでした。私がかういふのだから、あの息子もさだめし仕事の見つからないのに困つてゐることだらう。午はきても、錢なしには、いものきれ一つ口にすることは出來ない。午すぎには、口入やにもいつて見ました。ところが、口はあるが、いくらかの手すう料がいるとのことで、そこもだめでした。夜になつても宿やにもとまれず、尙もあつちこち歩きまわつたあげく、空腹と疲勞とで、すつかりまゐつてしまつた體を、中ノ島公園のろはだいの上に、なげ出すやうにもたれさせたのは、夜もかなりふけてからでした。

ふと、そのぢき近くに、あめゆやさんのゐるのが目についたものですから、ありのまゝに、私は、かうおねがひしました。

『一ぱいふるまつて下さいませんか。錢はもたないんですけれど……』

すると、あめゆやさん『どうして行きつまつたのか』とか『どこの者だ』とか、色々、私にたづねたりして、當節がら口をみつけることの困なんな事情や、自分自身の來れき——酒やにうまれたことから今の商賣にとりつくまでの苦心談などきかせながら、二はいのあめゆをふるまつてくれました。私はお禮のしるしに、もつてゐた扇を、むりに取つてもらひました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

何しろ、日ろ戰爭ごの、ひごい不けい氣をくつた時のことですから、夜中の一時二時になりましても、ろはだいの人はだいじよぶ、百人からは、のこつてをりました。中には、赤子をだいた婦人もあり、つい私の後では、三人づれの若者がくひにげの相だんをしてゐるのをきゝました。『くひにげは、だまつて、錢がある氣で、店に入つてしまふ。さうすれば、くひにげになる。』かういふのです。くひにげの哲學は私もはじめてゞすが、らんぼうは、らんぼうにちがひありませんけれど、はたらかうにも何の職にもありつけない、かういふ人々の身になつて考へてみますれば、むりもないとも感じられます。

中ノ島公園には、りつぱな圖書館があります。でんとうはこう／＼とてりかゞやいてゐました。私も前にそこへ入つて本をしらべトルストイといふ人のかいたものなどよんだこともありましたですが、かうした夜の半面が大阪にあることはゆめにも知りませんでした。

第二日目は、難波の方へまゐりました。とあるかけ茶やの表に、しん切さうなおばあさんがゐましたから『何でもよいから、たべるみちはなからうか。』とたづねましたら、辻うらうりを、すゝめてくれました。しかし、これにも紙代とみようばん代とがいるので、む一文の私には、できない話でした。

又あてどもなくあるいていきましたら、とある川べりへでました。二日にわたつて、ものもたべずあるきまわつたものですから、足がほこりにまみれ、あんまりきたなくなつたので、ぴろうな話ですが、ふんどしをきつて手ぬぐひがはりにし、かほと足をあらひきよめて、大分、せい／＼した氣持になりましたことは今だにおぼえてをる位です。

こんどは交番にたすけを乞ひにまゐりましたが、いくらうつたへても、とりあつてくれませんでした。

私は、その時、つく／＼考へさせられました、とうじは、桂さんといふ方がそうり大臣でしたけれど、たとへ、そうり大臣の桂さんだとて、私と同じやうにしては、いくら正直に口を求めても求まるものでない、あたり前にしては、けつきよく、死ぬかぬすむか二つに一つをえらぶより外ない、良心がごうの道德がごうのといつてゐる、よゆうなどあるものでない、と。そしてつく／＼、心ならずも罪をおかして入かんする人もあることゝ同情されました。

それから、けいさつの本しよにまゐりまして、しよ長さんに面會を求め、きのふからけふにかけての一ぶしゞうを申上

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

けて、ひたすらごえん助をおねがひいたしましたら、梅田の北に、小林授産場のあることを教へてくれました。これは小林さんといふ俠客はだあひの人がたつておくのださうでした。私はくらいみちを、つかれた足をひきずつて、そこへ行つて見ました。折あしく所長さんはおるすでしたが、おばあさんが一人ゐまして、物やさしく色々授産場のことを話してくれました。はたらき口のことは、あした、どうかしてあげるから、こんやはこゝへとまつてもよいと、いはれましたのでとめていたゞいて、むぎめしのごちそうにもあづかりました。

私は、そのばん、これで、やれ〳〵と思ひました、ともかくも正直に、口が求められることになりましたから。錢ももたず紹介人もない、ひとりぼつちを、かうしてお世話くださる授産場といふものも、時にとつては大したはたらきをなすものと感じました。

後から、私は小林さんといふ方あてに心をこめた長いお禮狀をだしました。

又、私には次のやうなけいけんもあります。これも今から十八九年程まへにもなりますか、金額は大したものでなかつたのですが、私はある家に借がありまして、それを、なすことが出來なかつたのです。さんげの生活に入りましてからは一錢でも金をうけとるといふことはいたされませんし、さうかといつて、そのまゝにしておいても氣にかゝりますし、困つてしまひました。それで、金がなくてもかへせる方法はないものかと、つく〴〵考へたあげく、やうやく一つ考へついたことがありました。それは外でもない、あやまつて、ばつをうけることです。私はかう決心がつくとすぐ大阪地方裁判所に出頭しまして自首したのです。

『私は委託金を私消ました。どうぞ相とうにばつして下さい。』と檢事さんに申しましたら、檢事さんは、

『損害をうけた者がうつたへて出なければ罪にはならん。』といはれるのです。

『それでも、實際、人の金をつかつてなせないのですから』とおして申しますと、

『何でそんなに、ばつをきたがるのか？　何か目的でもあるのぢやないか？　ろうやの中でもみたいといふのか？　それ程ふまじめにも見えないが、』と、やゝいら立ちぎみのことばづかひをされて、私のことはそのまゝ放つておいて後から〳〵、しらべられにきたものをどし〳〵檢事さんは片づけていかれました。その數は三十名にも上りましたらうか。私は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

そこではからずもよい學問をいたしました。

中にかういふ例もありました。今でも目の前にちらつくやうです。年は十三の子と覺えてゐます。ごふくやの反物をぬすむこころをつかまつたのださうです。その子のいふのには、自分のうちに、たべるものがなかつたので、『朝めしをよんでくれ』と近所のおぢさんにたのんだら、『反物をとつてくればくはす。』といはれたので、ぬすみにいつたのだ、と。

も一人は前科二犯だとき〻ましたが、氣のどくでならない人でありました。安治川につないだ船から、鹽と米を少しばかりとつたので、罪にとはれたらしいのですが、その人の告白によれば、うちに病氣してゐる女房と子があつて、どうにもかうにも仕方がないのだといふのです。

もとより、わるいことをした人はわるいので、法律はばつしなければなりますまいが、一體どうして人間はわるいことをするやうになるのだらうと、ふかく考へて來ますと、たゞ、ひとり〳〵の人ばかりは、せめられないやうな氣がいたします。それからそれへと因果の糸をたどつてまゐりますと、おもいかるいのちがひこそあれ、みんな同じ罪人であります。

どこかの大盡子が料理やで大さわぎをしてあそんでゐたとします。とほりがゝりにそれをみて、まぢめにはたらくのがばかくさいといふ考をおこすものがあるとすれば、その大盡子は、せきにんがないとは申されますまい。若い娘さんがけば〳〵しいなりをして街をとほる。さうはしたくも、できないもの〻目に、うらやましいなといふ感じを與へたとする。ぢごくが、もうそこにつくられてゐるではありませんか。

鹿ノ股さんといふ女學校の先生が、私共のつれにをりますが、あるとき

『私は自分のいたらないこと、これまでに澤山の罪つくりをしてきてをることは、わかりますが、他人のしたわるいことにも自分がせきにんをもたなければならないといふのは、どうもがてんがいかぬ。』と申されましたから、その時、私は、いまのべたやうに、『本人は、何もことさら、他の人に、ぬすみ心をおこさせたり、すてばちな氣もちをもたせたりしようといふ考はちりほどもなくても、お互に缺點だらけの人間のことですから、知らぬまに、どこでどういふふうに、人をそこなひきづゝけてゐるかわかりません。』とお答へいたしましたら、

『わかりました。さういふふうに考へますと、おそろしくて、うつかり口もきかれませんね。先生どうしませう？』と、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

まぢめな方ですから、ふかくお考へのやうでした。

私共は、不德で學問も何もありませんけれど、きものにしても、くひものにしても、居所にしても、できるだけそまつなものにし下にゐるやうにして、どなたに對しても、つまづきを與へないやう、へんな氣をおこしてもらはないやう、心がけてをりますのは、この上、罪つくり罪の上塗をするのが、おそろしいからであります。

私共は罪を自ら感じて、おわびのために、こんなつやけしな黑い色の着物をきせてもらつてゐます。皆さんのとは色のちがひにすぎません。法律にふれたふれないなどいふちがひは問題でありません。同罪です、同じ罪人です。私共にできることは皆さんにもでき、皆さんに叶ふことは私共にも叶ふはずです。お互、罪のよごれの泥の中から蓮の花をさかす工夫をつまうではありませんか。それは、必ずしてできないことではなさゝうです。

あやまりきるなら、のこる一生を罪ほろぼしとくわんねんしきるなら、そして、さう思ひついた時から、その場から、體の所作にまでこの氣持をだしますなら、今までに味つたことのない、すが〳〵しさ、ありがたさ、心安けさを感じませう。この感じあつて初めて、いき〳〵した佛さま神さまが拜めるのだと存ぜられます。お互、こんなやくざ者のくせに、あゝのかうのと思ひわづらつたとて何が出來るでせう。あすのことすら、わからない身ではありませんか。いや、あすといはず、今ばんがわかりません、一時のちがわかりません、かうしてこゝに話してゐるうちにも、どんなへん事がだれにおこるか、皆目わかりません。はかない、たよりにならんものにたよらうとするのは、まちがつてゐます。

皆さんは、又、いかにも逆境の人のやうに自分自身をお考へになるかも知れませんが、事實は、必ずしも、さうとは限りません。氣やすめに、私は、かう申すのではないのです。世間を見ますと、逆境にをつて逆境にをることに氣づかん人が實に數限りなくをるやうです。之を火事にたとへるなら、自分の家に火がもえついてゐることを知つた人と知らない人とは、どちらが仕合であるかは、いふまでもないことでせう。

三界は猶火宅の如し。と申してある通り、火はぼう〳〵、世間一體にあつちにもこつちにも、もえついてゐます。お互、油斷したら、すぐやかれて了ひます。さんげの心こそ、この上なき防火服でせう。火けし役が、今はかなり必要とされて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ゐます。世の中に必要なことであつて、あまり人のやりたがらない仕事をする役まわりの者も居なければ困りませう。私共罪人にはこの役が一ばんふさはしい、それを生がいやりとほしていきたい考であります。どうぞご同感の方は、私共のつれにおなり下さい。

私のそんけいしてゐる一人の友だちに、小此木忠七郎さんといふ方がありますが、この方は、先年、代議士のせんきよの時に、ある友だちが、こうほ者に立つたものですから、そのさんぼう長となつて、はたらいてあげたのです。今日のせんきよなど申すものは、みんな金をまいて自分の方にいれさせやうとするのが常なので、小此木さんも、それをしはしなかつたかといふけんぎで、そうぜい三十七人の者と、じゆつつなぎになつて、丁ど三十九日のあひだ、牢にいれられてゐたことがあります。

その時の話をきかせてもらひましたのですが、小此木さんのいはれますには、

『牢の中は、しづかに物が考へられて、實によい修行の場所だ。おかげで平生きづかなかつた自分のわるい點などが、はつきりとわかつた。それで、まづ牢の中から一燈園生活をやらうと思つて、べんじよのそうじを始めた。』

それから、出ごくなさる時、かんしさんから、何かかんごくについて感じたことがあれば、きゝたいものだと、たづねられたものですから、『世の中はうそでもつてゐる。牢やの中なら、正直にしてゐられる。もうしばらくこゝにゐたいものだ。』とお答へになつたさうです。

小此木さんが、妻子までおつれになつて、京都の一燈園におはいりになられましたのは、出ごく一周年きねん日だつたさうです。その頃、私のつれで京都の市會議員の方が、ぎごくにつながつて入ごく中でしたので、小此木さんとつれ立つて、私はそのお宅へ托鉢にいかせてもらひました。便所のそうじや何か、二人していたしましてから、よせがきの手紙を入ごく中のご主人にさしあげたのです。あとできかせてもらひましたのですが、牢の中にゐて、何がなぐさみになつたとて、うちへ托鉢して下すつたといふあのよせがきのはがきほど、なぐさみになつたものはなかつたとのことでした。

ついこの間、東京市療養所――肺病になつてお醫者さんにかゝれない方のお世話をしてあげる場所なのですが、そこへ托鉢にまゐりました折、私の次男が、ぢだの胸だのわるくて、ある病院のお世話になつてゐることを、同人のたれかゞ所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

長さんに話しでもいたしましたのでせうか、患者の參考品にかりたいとのことでした。それは私の次男も一燈園の仲間だからです。皆さんかとて、ことばは少しへんですが、もはん女囚となることが出來ないわけはありません。そして方々のかんごくへ參考品にかりられていくのも、よいことだと思ひます。

最後に、おねがひがあります。どうぞ皆さんのあがるごはんの中から一はしづゝ私共にご供養ください。このことが、ごきそくにふれるなら、一つぶだけでも、まどの外の雀か蟻かにお與へください。それは私共にご供養くださつたのと同じです。**私共はふつゝか者にはきまつてゐますが、體を神佛にまかせてゐるのです。一つぶのごはんでも、私共にご供養くださり、それがこの體の血肉となるなら、皆さんは私共の仕事にご參加くださつてゐることになりませう。けふ、これでおわかれすれば、又いつどこでおあひできるかわからない身ですが、どうか私共を思ひだしてくださつたら、私共にご供養のお心で雀にでも蟻にでも一つぶをめぐんでください。私共も皆さんのために祈らせてもらひます。**

（大正十一年三月二十三日廣島縣三次女囚監に於ける講演、松下生筆記）

以上のお話は、百何十人かの女囚方の前でなされたのです。殺人犯の女も四人とか中に交つてゐたこと、後からきゝました。きゝ手がきゝ手、場所が場所、天香さんも緊張し切つて息がつまるやうなお言葉づかひ！　ノートをとらせて貰つてゐた私も目を閉ぢ顔を俯せ幾度かヂーと祈らせられました。嗚咽の聲はそちこちからおこりました。二時間たつぷりも話されて、天香さんが壇をお下りになりましても、女囚方は中々たゝうとしませんでした。教誨堂——お話のあつた——の跡片附拭き掃除は、天香さんも交り、分監長さん教誨師さんまで加はつて私共みんなしてさせて貰ひました。殘り惜しさうに振りかへりくしながら、監房の方に、つれられて行く女囚方の姿には、何とも云ひやうのない哀愁をおこさせられました。私は、つれの人と、箒を持つたまゝ、その姿が建物に遮られて見えなくなるまで佇んでゐたのです。

私共が監獄を出る頃、雨がおちてまゐりました。Mさんの宅へ歸りながら、Hさんは言葉少なの人ですのに、餘程ふかい印象をお受けだつたと見えまして『けふはめつたに出來ない學問をさせていたゞきました。』と仰有つてゞした。

京都へ歸りましてから、天香さん宛に教誨師さんの名で左に揭げる幾つかの感想錄が屆けられました。すべて原文のまゝです。最初のものなど、筆跡までが、殊にすぐれて見られました。（松下）

女囚監より

私は曾て御敎誨で西田先生が京都で不思議な御生活をなさるこ承りまして只御慕はしく釋放の後は一度御目にかゝつて御禮を申し上げたいこ存して居りました。處が思ひがけもなく有難い御上の御手まはしから本月二十三日突然御來監下さつて嬉しいこも何こも例へ樣がありませんでした御姿に接した時只心の底から有難いこ云ふ感が起り尋て御話を聞く中に日本の釋尊であるこ云ふ尊敬の念が起りました。靑年の爲に斷食して迄の御苦勞を聞きし時如何に一切に對する邪見の深い私であるかを知らして頂き、富家の子息の遊の爲に一人の强盜が出たこ聞き、私の此邪見が如何に幾多の罪人を作つたであらうかこ身の毛がよだつ心地がいたしました。先生が御仲間の方々に先きだつて人の嫌ふ汚い場所を御掃除なさる御有樣を聞きて胸がえぐられる感じが致しました。橫着な私は現に只今斯る境遇に陷る迄の御意見にあひながら尙ほ今日迄汚い骨の折れる仕事は人にさして、自分はなるべく易い事をして責をふさがうこ云ふ考へを現に持つてゐました。固より之がよいこは思ひませんでしたが、私の痺れた根性が引きつり〱て遂に改めるこごが出來なかつたのであります。實に何こも云ひ樣のない恥しい勿體ないことであつたこ思ひあまつて一生先生の御前に頭を下げて謝り通しても飽き足りないこ思ひます。只此上はせめて實行して御禮の代りにするより外ないこ思つて、翌朝から房内の人々にあやまつて箒を持たして頂くここに致しました。食物の幾分を割いて自分に與へよ出來なければ雀に與へよこの深い〱思召は有難く味はして頂き涙にむせびました。一面永遠に如來樣に向はして徹底的に生きさせ、一面一切に向つて佛緣を結ばせて報恩生活をさせやうこの御心を拜まして頂きました私は、現在及將來先生に依て非常な力を得ました深く御禮を申し上げます。御隨行の御方々が皆御立派な御身分でありながら御目にかゝらせて頂いた事は有難い御意見で御座います、併せて御禮を申します。

○

此度西田先生樣には御遠方をもおいこひなく突然當監へ御出頭下され有難き御敎化下され、私事誠に此度の西田先生樣の懺悔のお話には感謝に堪へませんでした。私等西田先生樣の御話の通り今迄如何用に人より擯斥される共忍耐さへして居りましたならば、此樣に逆境に落ち入らずしていつか春の樣に花の咲く事もありましたのに、今迄自分の忍耐のたりませなんだ事を殘念に思浮べさして頂きました此三月二十三日に西田先生樣より有難きお話下されしを紀念こして、出獄後は今迄自分の淺墓であつた事を懺悔して將來忘れぬ樣に萬分の一なり共御恩に報ひ度く考へで居ります。

○

私は去る二十三日西田天香先生の眞心を聞かせて頂き深く〱恥入り、此の二十三日こそは、今までより以上いよ〱我が罪を誤らせて頂きました。先生は尊い御身にいらつしやりながら、かくまでに我が身を詫びていらつしやいますに、私は大罪の身を持ちながらぢつこして居られましよう、今より後は先生の萬分の一なりこも忍耐を致し眞行の道に行くこ堅く〱胸中に入れました。

又一ッ感じましたのは、神佛樣も先生の如くに、私共の罪を自分で御着に成り、私に一日も早く目覺てくれよ〱こ日々こ我が身に[illegible]

御見に成りさぞお泣の事と思へば私はもう何んにも言ひません、人をも怨みません、何事も私が悪かつたのです、善も悪しきも皆神佛様のお知りの事と思へば、私は何んと言はれても苦しく御座いません。毎日無事に務めさせて頂く事を有り難く感謝して居ます。

○

私は長らく監獄に居りまして色〱な御方に御目に掛かりましたが、**西田先生のやうな佛のやうな御方には未だ初めてあります**、いたらぬ私共の思ひますには、人に生れた上はがよくは入らぬ者仕事に上下も云われぬ者、人は必ず美しい心を持たねばならぬ者と思ひます、心さへ美しければ衣服は木綿でも錦をかざつたよりも尊ふとく見へまする私もかへりましたら絹のきものを着やうとは思ひません心・に錦をきて人たる道をつくさんと堅く決心致しました。

○

此の度御上様の深い御情けによりまして世にも名高い西田先生様から有難い御話を戴きまして云ひ得ぬ感に打たれました、殊に偽なき御姿を拜しては只々自分の心のあさましい恐ろしい事を感ぜずには居られませんでした。

どうかして一度眞人間にたち返り片時たりとも心の底からの懺悔をなし心の底からの御恩を御恩と感ずる人となり度と深く〱感じました。

○

先日西田先生の御說教を聽聞さして戴きまして感謝の涙にたへられません、先生御自分を差出しての御ざんげ御勞働の御話を私の是迄の仕事と思ひ合せて見ますればはづかしさに耐られません。萬事正直程尊いものは無いと感じ入ました。私も此後は只今の一念を貫き御上様に御慈悲の萬分の一たりとも御恩報の日送りを致します。

○

本月二十三日西田天香先生御入來に相成分監長殿の厚き御ほし召に依り私如き身分の者にても御目に掛り立派なる御話を受給之迄私の行來ました事の御はづかしさ、如何なる困難にも忍耐して己が心にかさを着て下を見て暮さねばまちがいの元と成ます、天香先生如き御身分の御方様さへ如何成るいやしき事にても御心棒下さるに私如きがあまり**之迄身分ふそうをうなる暮し向致ました爲め、一度成ず再犯迄をかし**御上様の御世話に相成申わけ御座いません、せめて出獄の後わ天香先生の御教訓の一分成共耳にのこして世の中に立ましたら必ず世の中の人様は御見捨は下さらぬと思ます。將來はきつと心得て暮さねば相成らぬと思て居ります。

○

先日御親切なる御話を御きかせにあづかり、私の今日迄の事を思ひ、恩を恩と知らず淺墓な日送りを致した事に恥じ入りました。又先生の御心の清きこと如何なる時に有りても不正の行ひをせずして、大悲の如來に御まかせになる御身の御德なんとも申しやうが有りませんでした、其の時私の感じさして頂きましたのは、せめては先生の行ひの萬分の一なりとも御まねするやうに此事は心がけたいとひとく心に自覺さして頂きました。先生は自分の今日迄の事を罪人の私共にまで御懺悔なさいましたに附、私も思はず我身の罪の有りたけをかへす〱す如來樣に御懺悔さして頂くと同じに、將來の世渡に附きて大安心を得さして頂く事の出來た事のみをうれしく感じました。先生の如く修養が出來ていたなら此のやうな事もなかつたらうにと、我身の淺ましさに泣されました。陰げながら先生の御健康を御祈り致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

椎の木

磯山松男

大正十一年五月なかば都の北郊染井といふところに托鉢す

主病みて久しければ家の内外いさいぶせくおもほゆ

椎の木の下なる落葉掻きわけて草花の鉢をとりいだすかも

大方は落葉にうもれ芽をふかぬ草花の鉢を出して並ぶる

うづたかき落葉の中に芽をふきて伸びたる草は白くしありけり

暖かき光に出せば草花の莖は萎えて地にたれにけり

鉢の間の落葉もくく動きたりやがて這ひ出る大き蟇一つ

縁先に並べおく鉢の土も白く乾きて見ゆるに心なき生物の愛しく

朝な夕なの水を忘れて鉢植のあせぼ芽立たゝず枯れにけらずや

木蔭より岩松の鉢取りいだししほれたる葉に水ふりかくる

鉢の中に芽をふきしまゝ根分けせず細くかなしき菊なりしかも

しのぶ草かぼそき息をつきにつゝありしむかしやしのぶなるらむ

蝸牛は寂然として生きてありけり

蝸牛なにげなく角をいだす時病室の中にしはぶき聞ゆ

現身はかなしといふか蝸牛角にさやれば身をかためつゝ

自然は寸毫の過誤もなく暗默の裡に進みて止まず

筍は地上にのびて皮はぐを病む人はいまだ起ちもえやらず

すくすくとのびし筍皮はぎて小枝の先には白露光る

青木の實葉陰に熟れて久しかり紅ふかくなりまさるかも

朝なさな掃く椿の葉すくなくなり梢に嫩葉の眼立ちけるかも

椎の大木の枝はかんさてゐたりけるに病なえてそのまゝなりと主のいへば、その心になりて

いぶせくも伸びし椎の枝剪らんとて時過ぎゆくも病の床に

のびたれてきらなと思ふ椎の枝の廣ろ葉しげりて病室くらし

きらなむと思ひしものを病床に見つゝ寂びしき椎のこの枝

うつそみの病うれひて椎若葉みつゝしあれば風鳴りわたる

風の日も雨の日も二回づゝ氷の買ひ出しに出る

氷買ふと街にいづればはれわたる五月なりけり人の影多し

おのも／＼うれひはもてど朝の巷に人々よ皆美しくあれな

いそ／＼と氷下げくる朝の道乾ける土に雫落ちるも

雨ふれば裾をからげて歸り來る下げし氷ゆゆげ立のぼる

うそさむき五月の夜の街道をわがひとり行くに犬のつき來る

電線の間に光る星のありいつまでも／＼わが仰ぎゆく

暗きよりいでゝ明るき都會にゆく若き男女を見かへりにけり

氷やの前に人々むれてゐたり中に醉ひどれが暴れてゐたり

駒込橋のてすりにもたれシグナルの灯の動くをば見てありしかな

街路樹の陰をえらみて金魚屋の呼聲あぐる夏さりにけり

看護婦の白衣とわれらの黑衣とは面白き對比をなしつゝあり

こゝに來ていく日なるらむ三人の看護婦にこそはつかへたりけれ

うら若き看護婦なれば病人の藥忘れし朝もありけり

うら若き女なれども看護婦は夜更けに起きて氷割り居り

看護婦が氷くだきて去りし故鷄の鳴く音がきこえ來にけり

看護婦が長き風呂より歸りけり白粉が強く匂ひたりけり

はゝそはの母の吾子に對する心盡しは涙なくしてみすぐされず

これの世に母とし子とし一人なり病ひいかでか癒さゞるべき

子の病ひ癒さしめたまへと朝なさな佛に向ひ合掌す母は

心こりてひたすらみとる子の病癒えがてにして梅雨近づきぬ

看護つかれに母も打臥すことあり

老いらくの母がみとりに疲れ臥す朝冷たき雨ふりけるも

母も病みて起きられなくに我いでゝかまどの下を焚きつけにけり

雨ふれば迷ふ煙の中にして朝餉の味噌をすりにけるかも

くりやべに維摩經偈を誦しにつゝ茶碗を洗ふ男なりけり

ほつとして手をふく時に我がまへに洗ひ忘れし飯のありけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

愚かなる父思ふ

――こどもを學校にあげて――

松下吉衛

▽乞食の子も三年たてば三ッになるとか、愚かものを父とする子が今年數へ年八ッになつて學校にあがらせて貰へたからとて、何の奇も異もない筈であるが、愚人常に愚痴多く父親馬鹿とも云へば何かと感ずるふしの少なからず。何れは馬鹿氣きつた愚痴話に過ぎざれどさてやみ難し。やつぱりこどもが可愛いからか？

▽こどもの愛は愚父も知る。さはれ現實に具體的にどうこどもを取扱ふのが、ほんとの愛なのか、愚父は愚父だけに『愛さんに愛し得ざる悲哀』を痛感させられて居る。憎からぬ子をたま／＼何かの拍子に度を越えて若しくは脱線的に懲戒叱責した折など、後からすぐあゝすまないことをして了つたと思ふし、夜に入りて何の苦もなさゝうなこどもの寢顔に見入れば『若しも此のまゝ眠り死に、死なれでもすると今日の過ちは永遠につぐないやうがない』など感じてそれは切ない。

▽はづかしいけれど『今日こそこどもに對して無難に過し得た』といふ日はめつたにありはしない。まして心ゆくばかり愛し得たといふ微笑を以て眠りにつく日などはてんで想像されない。こどもを愛さんに愛し得ざる悲哀の故ばかりでも、愚かなる父はたゞでは死なれぬ氣がする。

▽『こどもばかりで世があけるではなし、こどものことをそんなに苦にしたところが仕樣があるものか。』と云はれることもある。されど愚かなる父は悲しやそこの分別がつきかねる。愚痴はかうである。

▽燒野の雉子夜の鶴とかや。鳥獸ですら本能的に感ずるこどもに對する愛さへ實行出來かねて居る程の愚かものなれば、妻を愛し兄弟を愛し朋友を愛し國を愛し汎く人類を愛し、より進んで名もなき野末の花路傍一塊の石にまで愛を感ぜんこと、たとへ二世三世をかへるとも談決して容易ならず。しかも神の道を愛と立てれば――佛の慈悲も儒の仁も愚かものには異語同義と解せられる――なまなかに人間と生れし悲しさ、『人間業の廢止』を標榜せぬ限り――これ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が又愚かものには出來ないで困つて居る――**愛のない生活は一日こて生くるに堪へられない。**

▽かくて愚かものはごうしても『たゞごこでは死なれぬ』氣がする。罪を自覺し罪滅ぼしの所業を勤行すべく强要されてることを思ふ。茲に愚かもの丶懺悔奉仕の生活に入らせ**られた一因がある。**

▽懺悔奉仕の生活こは、一切をあげて神佛に委ねた罪惡自覺者の生活なれば、何事をも求む可らず、又何物をも所有するを許されない。固より破戒無殘下愚の身なれば一行に澄み切らうなご、こても及ばぬ望ではあるが『愛さんに愛し得ざる』罪人には、これにもましてふさはしい所業は見出だし難く、何かは知らずこゝに一番安定安住味を感じて居る。奇こ謂はれ狂こ呼ばれながらも、友に棄てられ家人に愛想つかされながらも、ふれなば血も迸らん青春の幾歳を、むさく、乏しく、くすぼれて、今に辿り來てる所以である。

▽兒よ！かくてお前は愚かなる父の恩人ではある。感謝す惠まれたる愚父かな！ ヲーズヲース曾て歌うて曰く『こごもは大人の父』こ。善哉々々！

▽靜かに考ふれば我が子は我が子であつて實は我が子であつてはならない。一塵一滴も神佛のものこすれば、ごうしてこごもを人間が私してよいものぞ。ナザレの聖者は『人小兒の如くならずんば天國に入る能はず』こまで極言せるをや。こごもを私するこき愛着起き煩惱生ず。之を神よりのつかはされものこして迎ふれば恩人こなり師こ現ず。愚父過てるや久し。

▽親の恩もせめては子に盡すまこここによつて返したく思ふ。子に盡すまこゝは何ぞ？ 爲めに美田を買ふことだらうか？。あらず。美田を遺されたこごもの不仕合は餘りに其の實例に富み過ぎて居る。『子孫の爲めに 美田を買はず』こ古人既に戒む。さらば學東西に亘り、識古今に及ぶ底の所謂物知りたらしむるにあるか。あらず。ゲーテのファウストを引合に出すまでもなく、愚父すでに廿七歲にして知識生活破產の傷ましい經驗を具さに甞めさせられて居る。如何な情しらずの愚父も、神よりの托されものこしてこごもを取扱ふここを敎へられた今、身神のおびえるやうなあのディレンマにそれこ知りつゝ我が兒を追ひやるに忍びようや。科學の權威は愚父も尙よく之を知る。而かも斷じて靈性のここに關與せしむ可らざるを思ふ。科學の價値は到底道具こしての資格を越ゆるここを許されない。道具を使ふ主人公は別になければならない。主人公こは他なし曰く靈性である。これが主客の關係一度顚倒するこき、無

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

明生じ權利論起り生存競爭こなり資本主義こ現じ、勢の極まる所世界大戰亂こなるなり。

▽愚父の愚痴かくの如し。兒よ、お前はこの父から世の常のものを豫期して居ては大きに當が外れるであらうぞよ。罪を詫びたる身の、人から嘲けられつゝも粗衣を纏つて行乞し續けてゐる父が心事はお前も少しは解つてくれてよい筈。父が今知れる限りのお前に盡し得るまここは、この行乞言ひ換ふれば懺悔奉仕の生活に澄み切るここに外ならないこ確く信じて居る。昔は西行法師こいふ聖、衣の裾にまつらふ愛子を椽より蹴つて家を出で托鉢の旅についたこ聞いて居る。この父こてもなまじ人情氣を出せば、お前にねだられるまでもなく、靴も買つてやらうし、請はるゝまゝに活動でも芝居でも見せもせうが、さうしてやることが反つてお前の靈性を害ふ理を深く信じて居る父は、强ひてお前に苦忍して貰はねばならない。あながちに無情の父このみ思つてはくれるな。いまあにはそれこわかつてくれる時機も來ようものを。かうした態度を取つてさへ、父をして苦笑を禁ぜざらしむる出來事が稀ならずお前の身邊に起るのをお前も滿更知らないではなからう。お釋迦樣の說かれた敎の中に次のやうな句があるさうな。

『圓頓之道無二人情一。』

▽かういふ次第で父はお前にうつし世の何物をも與へられない。世間でよくいふ『女房子を養ふ』ここすらも叶はない身だ。『三十にもなつて女房子に着物一枚着せられない』こて皆からたしなめられる時の父が心事を誰が知らう。『あなたの友人の誰某さんは何々になつた』こあてこすり云はれる時、父はほんこにハラ〳〵させられる。

▽併し兒よ安心してくれ、懺悔して一切を抛ち、奉仕の生活に立てば、不思議やそこに無限の福田あり、求めずして淨き衣食は、神佛より供養される。この生活の體驗こそは愚父がお前への唯一の供物ぞ。この生活まで來ればお前でも弟妹でも母でも祖父母でも一家ぐるみ親族ぐるみ、ぢき〳〵に神佛より淨き衣食を惠まれるここ必定であらう。この妙味は親しく體驗してもらふ外に傳へやうがない。よく〳〵考へて見るに、凡そ人こいふ人に――誰か完全な人があらう――、他を害することなしに自分で自分を養ふ能力などありやう筈がないのではあるまいか。まして女房子までを養ふことをや。たゞありがたいことに懺悔奉仕の生活あり、此の天地に歸るこき極惡重罪の人も許されて活かされる。

▽何物の光榮ぞや！この愚かものは今光明に導かれ此の生活に立つを許されて居る。不德無能無一物にして養はる。

こゝには『如何にして食ふか』は問題としてすら成り立たず、従つて温情主義的社會政策など何等の用なし。この愚かものには一物の常備なきが故に貧者より貧なるも福田無限なれば富者よりも富める心地す。見よ！安んじて可ならんか。

▽さても見よ！お前は此度學校といふところへ行かねばならぬのだ、學校といふところは今迄お前が生活して居た家庭てふ天地とは大變に趣が違ふ。そこは前以て覺悟して居て貰ひませう。でもかく云ふは何も學校を悪しざまにこれこの意ではないのだから誤解のないやうに。

▽たゞ次のことだけは、是非云うて置かねばならぬ氣がする。心してきいてくれよ。凡そ制度法律といふものは、その制定の根本精神に溯れば原則として社會公共の福利に背馳することを許されない筈である。お前も英語を初めたら讀んで貰はにやならぬ本だが『パーレーの萬國史』に書いてある有名なリコルゴスといふ立法者の逸話をおはなししよう。

▽それは今から二千八百年も前のこと、當時非常に榮えたギリシヤのスパルタの人であつたがその國の法律を制定し終るや、國民の前に『自分はこれから旅に出掛けたい。どうか自分の歸つて來るまで諸君の爲めに編んだ規則は堅く遵奉し決して違背しないといふ誓をして貰ひたい』と、かういふ挨拶を遺して立つて行つて了つた。そして再び歸らなんだ。史家の傳ふる如くんば、リコルゴスは斷食して我と我が身を餓へしめ、遺言により人をして殘骸を海に投ぜしめたのださうな。

▽かう書いて行くと、父が少年の時この話を讀んでいたく感激した當時の光景がまざ／＼と想ひ出される。見よこの一挿話でもわかる通り、立法者の心事にはかうした獻身的大精神の發露を見ること決して稀有ではないが、さて現實にどれだけ法律制度が制定者の根本精神に副うた運用を見て居るかは自ら別問題である。本來から云つて誰か罪人を多くせんとて刑法をつくつてよからう。誰か人民の日常生活を不圓滑ならしめんとて民法をつくつてよからう。誰か人殺しをさせる爲めに兵役を國民に課してよいものぞ。誰か我の強い頑なものを養成せんとて義務教育制を立てゝよからう。併し事實はどうであるか。人各見る所あり又問題が問題だけにさう早急な斷定を許すまいが父の觀察し得た範圍内では法律の完備が必ずしも良風善俗を意味するものでないことを證據立てる實例に富み過ぎて居る。忠勇なる國家の軍隊は常に必ずしも義戰のみには用ゐられぬらしい。同樣に國民義務教育の機關たる學校も一々仔細にそ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の内容を點檢するとき不幸にして見掛け倒しの觀なき能はざるもの決して少なくない。

▽父曾て閑を得て柄にもなく諸方の學校を參觀させて貰つたことがある。色々とお蔭を蒙り今も感謝に堪へぬ次第であるが、同時にまた現代學校敎育の不備若しくは缺陷をまのあたりに紹介されて驚きもし悲しみもし慨きもし又同情もさせられた。

▽ある學校では一年二年の幼童を七八十名も十八九の年若な女の先生に受持たせて居つた。無能不熟愚父如きが自分を標準として濫りに他を類推する事はよく〳〵愼まねばならぬが、靜かに觀て居るのに先生も生徒も汗かゝんばかりに努力を拂ひつゝも、何等望ましき効果を擧げ得ざるもの多きに徵しても、此くの如きは苟しくも一個人の能力に自ら限界あるを知り幼童の心理生活と生理狀態を辨ふるものゝ到底坐視するに忍びぬ事柄ではあるまいか。地方財政がどうのかうのとの議論を屢々耳にするが、僅か兩三日間の客呼び騷ぎに飲食ひ藝妓の費用として千二千と纒まつた金を惜し氣もなく出す市町村などもざらにある位だから、可愛いこどもの爲めの道理ある支出といふに相當な金の纒まらぬ筈はないやうに思はれる。それも叶はぬとならこどもを愛する精神の人には自づと他に良法の湧いて來ぬ事もあるまい。又愈絕體絕命となら、こんなこといふとしかられるかも知れぬが、そんなにまでして『ハタタコ』は强ひて授けないでも、世の中は決して悪くなる氣遣はあるまいと感ぜられるが如何にや。成る程學校へさへ上げて置けば字は覺える算術は出來るやうになるであらう。併しながら若し學校生活がこどもからその天眞純一なる情意を奪ひ、生々しさ暢々しさを失はしめるやうなら、それは人の子を賊するものであらねばならぬ。愚父の見るところ當節はいやに小才のきく智慧者の過多なるに困つて居るので、此際寧ろ目に一丁字なき大馬鹿者の出現こそ强要されて居るのではあるまいか。

▽ある學校では考査（昔の試驗のことださうな）上の成績を擧げることに全精力を傾注してまた他を顧みるに暇のないやうな有樣であつた。規定の始業時間前から課外の授業をし、晝休すら其の目的に利用することを忘れない熱心さには思はず驚異の眼を見ひらかないわけには行かなかつた郡役所の報告によると其學校は或る學科については比較考査に於て常に首位を占め、當局の覺え誠にめでたきやうに聞いて居る。

▽愚父は門外漢なれば何も判らないが學生時代の貧弱な經驗より推して考ふるに考査にて朧ろ氣ながらも判定し得る

は兒童の有する複雜多面なる心力中、主として記憶力本位のものであるらしい。記憶力の强いもの即ち優良人格者てふ公式の立たない限り、單に記憶力の器械的練習の成績を唯一若しくは主なる標準として教育の全班的効果を判定せんとこの當否は智者を待つて後知る可きではないやうに思はれる。さはれ、考査は何でもかでも全廢するにも及ぶまい。たゞ考査の成績を以て兒童の全人格的判定の基礎となす可らざる理を牢記すれば足れりとせん。扨ても考査といふや、もすれば他縛的威壓的器械的になり易い不自然極まる方法に依ることなしに生徒の學力を增進せしむる術はないものだらうか。

▽考査について想ひ出さるゝは品行查定のことである。これは考査と共に、特定の一校に限らず普ねく行はれて居る所らしいが、父を以て見れば考査にもまして由々しき大事のやうに思はれてならない。品行甲の子と乙の子と全人格的に比較してどの點がどう違ふのか考へれば考へる程わからなくなつてしまふ。例へば茲に喧嘩好きの爲めに品行乙に查定された一生徒ありとする。而かも此の生徒の喧嘩好きの主因は家庭に於ける兩親の實物教訓にありとすれば單にこどもの品行點を乙とすることにどれ程の教育的價値ありや。又茲に善行兒童として表彰された貧兒に感奮し、我も一つ善行を勵まうとの殊勝な發心をなせるに拘らず、幸か不幸か家富裕にして長上に自ら仕へんやうもなく、內職の手傳はおろか、朝夕の拭き掃除すら殆んど手を下さうに由なき爲め、何日しか初發心も鈍りて遂に驕兒たるに至つた生徒ありと假定せよ。その罪誰にかある。又誰か責任の歸屬すべき所を定めん。

▽兒童はその家庭に感化され家庭はまたその社會に影響せらる。故に兒童の善きは家庭の譽また社會の榮なると同時に、兒童の惡しきは家庭と社會と共にその責を分たざる可らず。先生も亦兒童に最も近き社會の一員たること今更愚父の說くまでもなし。人はもと社會的動物なりと古哲すでに言ふ。されば業々しく認識論をかつぎ出すまでもなく始終錯誤しがちな人間知を以て運命に幸された一兒を褒め、その呪はれたるものを貶し、責任の歸屬を個人的に斷定せんとするが如きは事理を解せず、人の子を賊するも甚だしいといはなければならない。

▽學年末に催される證書授與式に參列の榮を得られた人は誰しも經驗されるところと思ふが、所謂優等生と空兎狀生との顏を圖らずも見比べさせられて、同じく誰にくからぬ人親の子であるに想ひ及び無量の感慨に耽らせられたことあるを今も愚父は記憶して居る。

『毒だ！毒だ！確かに毒だ』

理窟は如何やうにもつけられるであらう。しかし愚かものの直觀は否應なくかう叫ばしめる。

▽優等生に對する最善の報酬は學業のよく出來た事それ自身の中に求めらるべきではあるまいか。例へば算術の難問を懸命に攻究し自ら解法の發見出來た刹那の感じはそれ自身に報賞を含んでは居りはせぬか。かうした精神的待遇を要すべき事柄に强ひて物質的取扱をなし敎科書一二冊雜記帳兩三冊を以て之を表彰せんとするは果してその當を得たるや否や。ギリシヤの昔オリンピックゲームの優勝者を飾るにわざ〳〵物質的には無價なる橄欖樹の枝葉であんだ榮冠を以てしたとか聞いて居る。ゆかしく思ふ。

▽學科の考査成績によつて席次をきめることも愚父如きには危なかしくてたまらない。規則としては生徒に知らさないことになつてるのだらうがごたぶんにもれず公然の秘密なのだから何にもなりやしない。平均點はさて置いて總點數に於て一點二點の相違でも上になり下になるのだからたまらない。それも學校の席次とは主として暗記力の强弱を意味するものなりとの公告でもあるのなら兎も角、世人のお人好しなる之を以て全人格的評價と見做すものが案外に多いので問題が起きる。こどもが優等賞を貰つたり席順が上つたりさへすれば親は一も二もなく悅に入るし先生の覺えも亦めでたいといふもの。學校卒業生を銀行會社で採用する場合にも多く成績席次を問ふし、取り分けお役所と來たら肩書資格がないと具合がわるいのださうな。

▽『生活環境に適應せざるものは死滅す』とは生物學の敎ふる原理であるさうだが、上述の如き制度の下に養はれては如何な良質の人間の卵でも變質して點取蟲となり、いやに身勝手になり、排他的競爭的になり、狡猾くなり、間に合はせ的になり、投機的になり、打算的になることに何の不思議があらうぞ。

▽義務敎育の名に於てかうした學習法を强制する限り、子弟の間に眞理究明に對する熱情なく、天地の秘義に接しながら胸に驚異の精神波打たず、抽象的な修身敎授を如何に高調しても自他一體感湧くに由なく獻身的精神培はれんやうなからんか。

▽頃者、新紙を讀んで思はず溜飲を下げた一記事に接するを得た。陸軍高等敎育諮問機關の答申と覺えて居るが何でも『我陸軍敎育は生徒に對する一切の評價を全廢するに非ずんば根本的刷新の道なし。』といふやうな意味のことが報ぜられてあつたのだ。答申書に果してさうあつたかどうかは此處に詮議すべき限りではないが、兎にも角にも、よし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

噂だけにせよ愚父が如きには空谷の蛩音の感なからず。さても文政當局と實際教育家と所謂識者とは之を如何にか觀んとする。

▽ある學校では體操ならでは夜が明けぬといつた勢で、校**庭には軍隊そのまゝの善美を盡した機械體操の設備があり應接室の裝飾から掛圖から一切體操本位に出來て居つた。**

▽體をよくすることは誰ひとり反對でないに違ひないが國民教育には偏頗は許さるべきではない。軍隊と學校と同一でないことは知れ切つた話。それに愚父が如き門外漢を以てしても、今日普ねく採用になつて居る所謂『氣を附け』の姿勢なるものには根本的に研究し直す可き疑問があるやに思はれる。第一あれは自然でない、從つて安定のすわりでない、あまり胸ばかり張り過ぎてゐるので氣海丹田にある可き重心が餘程上にあがつて了ふ。だから指先で一寸つゝいても前にのめる。これではいくら肩を聳やかしても駄目だ。論より證據氣を附けの姿勢を少し長く續けて見なさい肩はこつてくる、首筋がイヤにぎごちなくなる、しやうのないものだ。

▽一體姿勢といふものは普通解されて居るよりは遙かに大事らしい。胸を張つて體の重心の上に來て居る人達に兎角怒りつぽく氣短かな連中が多いのに反して、胸を安らめ臍下丹田にギュッと力んだあの達摩大師の姿勢にして初めて面壁九年大悟徹底もなるといふもの、輕佻浮華なる當代の風潮にも鑑み氣を附けの姿勢はよく〳〵再審議を煩はしたいと思ふ。

▽**一時體罰問題が教育界を賑はしたことのあつたやうに記憶して居るが、大家の意見がどうあらうとも文部の規定が**之を禁止して居らうとも隨分思ひ切つた重刑すら平氣で科して居る學校もあつた。一例を擧げるならまだ頑是ない初學年生を捉へて、教室の椽の下へ、床について居る塵捨の揚蓋から、同僚の助力をかりてまで、無理やりにねぢ込むことや、こども兵兒帶を解いて階段の手摺に縛り附けることや、横頬をなぐることが（俗にビンタをくれるといふのださうな）尋常茶飯事だといふから一寸驚かされる。それは雜多の家庭から來る數多い生徒のことだから中には箸にも棒にもかゝらぬ連中が居つて、先生方の御手を煩はすこと實に一通りでないことは、たゞ感謝と同情との外はなく、恐らくかう云ふ豪傑連にかゝつては口先の訓戒など蛙にかける一杯の水ほどのきゝめもないので、漸次お小言も加速度を增して行つてよく〳〵のことで前述のやうな仕打ちに出られたものと思へば一々尤至極ではあるが、そこをまだ考へねばならぬ餘地があるのではなからうか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

▽想ふにこの豪傑連の家庭に於ける生活は、それは人情の溫かみに缺けたもので些の過ちにも頭から野郎呼ばはり、あま扱へにされる爲め『自分はほんこに惡い者であつてこても善くなれつこない』こいふ考へが腦髓のまん中迄しみ込んで居るのではあるまいか。さればかうした連中を如何に懲らしめても痛い思ひさせても教育的効果を收め得るや否やは大なる疑問だこ考へられる。寧ろ病原そのものに目をつけて、よし治療には色々手數を要し又長くかゝらうこも、根本的手術を施すこそほんこうの親切こいふものであるまいか。さらば何をか根本的手術こ言ふ。

▽それはこごもの罪をこごもの罪こしてのみ問はないことである、否先生も共々にその責を分つて神佛の御前に懺悔する態度に出づるヿである。愚父にはよくわからんが聖書に所謂『裁く可らず』こはこゝを云うたのではあるまいか。

▽ある土地では男生こ女生こを學校別にして居た。社會は男女にてなり家庭に父母兄姉弟妹ある限りこれは不自然ではなからうか。ある學枝へ行つたこころが校舍の宏大なる全國にもあまり其の比を見ないものなさうだが、教育的に見て又その環境の具合惡るさもめつたにないものであつた如何に其の土地の役場當局こか學務委員こかゞ教育的智識に缺けて居るこはいへ、あたりまへでこんなものを拵へる筈はないから、恐らく近頃よく流行る例の黨派的利害關係から校地の奪ひ合ひでもあつた結果否應なしに例の『公平論』の立場からこんな『萬里の長城』みたやうなものを築く可く餘儀なくされたのだらう。『親の罰が子にたゝる』で因果を見るは此土地の何の咎なき子女である。

▽校長對職員、若しくは職員相互間の問題で大分もめてゐるらしい學校もあつた。同じ土地の學校でありながら聯絡をこらないのならまだしも內心互に反目してゐるものもあつた。

▽教育は愚父の說くまでもなく直接人格を對象こし人生觀の構成に交涉あるものなれば、かうした現象の起らう筈がないのであるが事實なれば打ち消し樣なし。その由つて來る所については門外漢の濫りに揣摩するを許すまいが、學級比較考查の勵行あり、職員の購讀圖書に制限があり退校時間に不條理な不文律があり、更にその任免にも公正を缺ける例屢ある所などから憶測するに或は恐る校長の職員指導の道に人格的要素が幾分足らぬのではないかを。

▽澤柳博士の校長論にごう說いてあるかは知らぬが、凡そ人の長たるものは自分が部下より上位にあるのだから、敎へてやらう監督してやらうなごいふ心があつたら、それこそ大間違ではあるまいか。これについて想ひ出さる

彼のフレデリック大帝の名言である。『朕は國家の公僕なり。』と。さすがはドイツ聯邦建設の名君だけあると感嘆の外なし。小さい一家についても主人が家族使用人を頤使して行かうとしたなら家の齊ふ筈はあるまい。

▽反對に一片奉仕の精神が主人の胸にきらめけば所謂德孤ならず必ず隣ありでおのづと相手方にも同一精神が現はれ來るであらう。無爲にして化すとは個中の消息を漏らせしものか。それは奇妙なもので人間位こちらの出様でどうにでもなるものはありはしない。人格的に待遇されゝば人格的に仕事をする、監視されてるなと思へば其の目をもぐる邪智を働かす。誰れやらが『人間は神と惡魔に似せられて造られたのだ』と言うとこるがよく穿つてゐるではないか。

▽職員相互乃至學校對學校の反目離間についてゝは天下の不祥事として愚父は離れて祈禱をこめる外なきを思ふ。たゞ聖の言葉を一言引かせて貰ふなら『汝道を求めんと欲せば人とやはらいで後我に來れ』とあり。道を求むる精神なくして任に敎職にある者のないことを信じたい。

▽主務省の調査發表によれば、全國に亘つて小學敎員がまだく大變不足を告げて居り、現に愚父の觀た一校の如きは校長及び二職員が急に引いた爲めに敎室狹隘の故ならで二部敎授を餘儀なくされて居た。愚父の直接耳にせる所でも轉業し若しくは轉業を書策しつゝあるもの決して少數ではない。動機は單純ではあるまいが、あからさまに『食べられないのだ』と告白される方が稀ではない。

▽若しこれが事實とすればこれだけで由々しき社會問題であつて、人生々活の根本義から徹底的解案を求めて來ねばならぬと思ふ。卒直に考へて見るのに、比較的不道德なものが現に裕かな暮しやうをして居るのに比較的道德的にして食べて行けぬものの存在する社會は決して健全なる若しくは望ましき社會といふことは出來ぬであらう。どこかに間違ひがなくてはならぬ。或は早晩改革せらる可き前世紀よりの遺物（個人主義的施設）が殘存して居る爲めではなからうか。

▽問題が大き過ぎて愚父如きにはちと苦手であり、又かうと云つては專門學者に叱られるかも知れぬが、現代經濟社會の根本組織――その二大支柱たる私有財產制と無制限競爭制とにどうやら具合のよくないところがあるらしく思はれてならない。

▽例へば茲に腹のへつた二人の人の前に置かれた一椀の飯ありとする。無制限競爭制と私有財產制で行けば所謂弱肉强食で腕つぷしの强い而かも殘忍な一方が一椀のこらず平げることゝなるし、若し兩者の力相如くとせば一番よく行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つて不本意ながらの山分けである。而かも事實上起り得る殆んど凡ての場合に於ては餓鬼道的奪ひ合ひの爲めに、勿體なや一椀の半ばはあたりに空しくこぼされて了ひ、兩者互に傷き疲れ、而して實際、口にし得るところは僅々幾粒のみ。

▽これが過去何千年かやり來りの社會生活だとすれば人間といふ智慧者にも似あはぬ仕草のやうであるが事實だから仕方がない。では反對に神の嘉し給ふ愛の精神で行けばどうだらう。最早そこでは力の强弱は問題をなさない。相敬互讓恐らくは半椀宛をよしひもじくとも舌鼓打つて樂しみ合ふこと丶なるであらう。同じくこれ半椀の飯なりとも此れと彼の山分けの行き方とは雲と泥との隔てあることを思はねばならぬ。かく云へば論者或は云はん、生存競爭を原理として生活きて居る生物の一種に過ぎない人類に愛だの神だのと云うたとて始まるものかと。

▽論者の生存競爭とは恐らくダーヰン氏說く所の進化論あたりから採り來つたものと想像されるが、ダーヰン氏は其の名著『種の起原』に於て世間普通に解せられて居る如くには生存競爭を以て人類進化の理法なりなどと言明してゐないさうである。それは兎に角として愛を以て原理とする生活の、人類にとり必ずしも不可能でない實證として現に人々の營みつゝある家庭生活の內容に論者の注意を呼びたい

▽玆に事新らしく說くまでもなく一家庭內にあつては財產は便宜上誰のものと分たれてはあるもの丶、必要に應じてはい丶氣持で相互に融通し合つてゐる。又弟が兄よりも經濟的に無能だからとて兄の三椀に對し弟は二椀より食することならぬとは要求されない。病者老者幼者廢者は寧ろいたはられさへする。家貧にして食乏しきや、已餓えてまで病夫に藥をすゝむる貞婦あるは決して稀有のことではないこれ豈愛の精神の遺憾なき發現ではなからうか。一方にかうした純美なる生活の實行を示して居る限り、之を一般社會におし及ぼす可能性が人間にないと誰が斷定出來よう。

▽私有財產制と無制限競爭制との代りに愛を原理として組織された社會！ そこには顧客奪ひ合ひの爲めの廣告や、求職の爲めの汚ない運動や、一部特權階級の爲めの意義なき人命の犧牲やは用がなく、人間精力の浪費と冗費と相殺とは存在を許されないであらう。金が人間を支配する代りに初めて人間が金を使役するやうになるであらう。所謂金儲けの必要はなくなるであらう。科學の亂用は止み生產は激增するであらう。軍艦と大砲とは歷史物語の參考品と化するであらう。正直に働いて養はれないものはなくなるであらう。總じて今日見るが如き生活

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なく遊戯三昧の氣分が漲るに至るであらう。若し夫れ愛の精神に悖り社會の秩序と安寧とを紊るが如き者あらば、人々は彼が罪を裁いて牢獄に投ずる代りに、神佛の御名に於て彼と共に罪を分ち其の御前に懺悔するの態度に出づるであらう。かくて凡ての價値觀は顚倒を見るであらう。

▽では如何したら、かういふ社會を實現することが出來ようか。

▽昔から不條理を嫌ひかうした理想社會を望み待つて居た人達は決して少ない數ではなかつたであらう。それにも拘らず慘憺極まる人類を擧げての大戰禍を經過して間もない今日尚且帝國主義的若しくは資本主義的幻想の囚はれより脫し切れず、どこがほしいの、償金をいくらくれの、人種平等案がどうの、モンロー主義がどうのと、云ひ合つて根つかららちがあかぬのは要するに『望み待つ』程度のものが大多數を占めて居るからではあるまいか。支那に流るゝ黄河の水は百年待てども淸まることが無いとかで『百年河淸を待つの嘆』といふ句が出來たのださうだが、此の場合よくあてはまるやうに思はれる。

最早『望み待つ』だけで到底ものにならぬことはわかりすぎる位わかつて了つた。

▽かうなつてはモウそれと自覺された方が人を『待た』ないで我れと歩み出さるゝ外はないと思ふ。世界改造の[illegible]よし。而かも各自の歩み出し、言ひ換へれば自己改造に根ざした世界改造の花でなければ立派な果實を結ぶことは望み難いであらう。

▽然らばどう歩み出したものか？これが最後の又最要の問題である。徹湍的なことはモウお互に云はぬこと。

不德の身なればロはゞたけれど、若し卒直に言ふことを許して貰へるならそれは懺悔奉仕の精神を生活そのものに徹底せしむる外に道がないやうに思ふ。人一度此の境涯に立たんか、無一物無能にして養はれること、いと貧弱なる愚父如きが經驗に徵しても明かである。玆に所謂懺悔奉仕の生活とは、もとより愚父ごときが創見に出でしにあらず東西古今の諸佛諸聖、既に業に親しく體驗せられしもの。『學ぶや祿その中にあり。』といひ『道心に衣食あり。』といひ『父の家には養ひ多し。』といふもの。皆個中の消息を洩らせしものか。

佛書に『五百年間出の師』といふ文字が出てゐるさうな。五百年間に一人位づつは捨身沒我、懺悔奉仕の生活を徹底して行じた人天の師が出て居て、このわづらひの多い問題だらけな世の中を整理して來てゐるといふ意味にも解せられると思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

▽若し制度悪の改革に『社會的』の運動が必要なら、懺悔奉仕の精神をそこに生かせばよい。

▽共同團體運動の成蹟を見ても其の成否は殆んご此懺悔奉仕の精神の有無に依つて定められて居るこ見て大過ないやうである。約百年以前彼の有名なロバートオーウエンにより年收四十萬圓の財産を傾注して、米國インデイアナ洲に企てられたゼ•ニユウ•ハーモニイ•コンミユーニテイ•オヴイクヲリテイが脆くも僅々二年にして崩壞の運命に際會せるに對照し、同じく米國アイオハ州なるアマナ•ソサイテイが七十年の歴史を有し年こ共に繁榮しつゝあるは何事を語るか。彼は權利論に立てる者なるに反し、是は敬虔敎徒に起原を發せる基督敎的共産團體であるからでもあらう。オーウエンの悲痛なる『解散の演説』の中に

『思ふに個人主義の組織そのものは一の迷想を根據こするに過ぎぬけれごも、而かも其の組織の下に訓練された家族は互の爲にする節慾及び慈愛の德性に缺けてゐる。而も此等の德性はすべての會員同志の間に完全なる信任こ調和を維持する爲め必要缺く可らざるものにて、之れなくしては村の存立到底不可能なるものなることは這個の實驗の明瞭にした所である。』(河上博士譯)こ述べて居るが、アマナの方には又嚴肅を極めた宗敎的生活が强要されて居る。 團創設者の一人グルールの制定した『日常生活の清規』の中には

『我を沒し我の慾望、智識及び力の一切を棄てよ』

『隣人に對し愛情こ忍びざる心に生きよ、而して憤怒こ短氣こに本心を失ふな』などいふ凄い句がある。

▽武者小路實篤氏の首唱によつて、經營されてゐるこころのかの『新しき村』に對しまして、或者は『華族のお坊ちやんのわるさ』こ下馬評し去り、或者は『止れ』こ忠告し、甚しきに至つては、中傷説を流布して歩く者さへあるこのことであるが、愚父の如きは、不敏ながら、同氏が藝術上の創作に慊らでか、身を挺してその信念の生活化を敢行するに至つた雄々しくも尊い發心に對して蔭ながら鑽仰してをるものの一人であるが、それだけに又杞憂も人一倍感じてゐる。村の會員規則を見るに、ごうも性能の自由な發揮が主眼で、懺悔奉仕こいつたやうな匂がなさすぎるやうに思はれるからである。このこころ村民各位の御一考を煩はしたいこ思つてゐる。

▽かく私有財産制、無制限競爭制の代りに愛の精神を以て社會組織の根本原理こなすべきことを確信し、これによつて社會の調和こ人生の自由こを將來し得可しこの見解をこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

心を傷ましめるものがある。そこには愛が缺けてゐる。東京と云はず地方と云はず隨分學校見學は務めたが、門外漢の愚父なれば、教授法が何段になつてゐないの、あの時の板書はどうすべきであつたの、机間巡視が早すぎたの、劣等兒が活動してをらぬの、く丶りの文句が一言云ひ足りなかつたのと、いふやうな黑人的批評は出來る筈がないけれど、**たゞぼーつと教室へ入つていつて、ぼーつと立つてゐて**、い丶加減して又ぼーつと出てくるだけである。でも何か感じる。殊更に感じやうとしないでも、自然に何か感じる。この感じで、先生とこどもとが合體してゐるかどうかゞ直觀されるらしい。愛の精神に最上の價値をおいてゐるものには、この自他合一感が又なきよろこびである。

▽兒よ！お前が今度お世話になる學校といふものには、こんなにも解決を要すべき問題があるのだ。今更こゝにあらためて說き聞かすまでもなく、父が人と人の世とに對する考へ方のあらましは日常折にふれてお前の耳に入れてあるから大方わかつて吳れてるだらう。父はお前の知つての通り、おこがましけれど今罪を自覺して奉仕生活に立てる身である。自然世間なみの學校教育をお前に授けることが叶ふやどうや計られないので――このことの爲めに父を惡しといつたらお前の間違ひになりますぞ――一年程前からお前に遊戲化した形式で讀方や算術を敎へ初めた次第なのだ

▽父も、それには一寸苦心を要した。何しろ、餘暇が少ないので一所に入浴しながら濡れた指先で風呂わきの板に字を習はせたり、朝夕の寸暇に双六の賽……遊びにお前の興味をつゝて加法を敎へたり、すぐれたお話を撰んでは讀みきかせたり、人からは物好きと冷笑されながらもこれは父にとり尊い日課の一なれば斷えず心頭を離れやうがなかつた。時には多少强制的に學習事を命じた場合もあるけれど、**あれはお前も漸時成長して行けば仕事といふ觀念を與へて置く必要もあると考へたからなのだから**誤解があつてはなりませぬ。

興味も湧いたものかお前も相應勉めてくれたので一日十分か廿分づゝ一年あまりの學習で學校の二ヶ年分位の進度はあつたらしく思はれるが父の慾目だらうか。

▽かういふ取扱を受けて來たお前が、今度一年生になつて『ハタ、タコ』を繰り返し『一ニ一タスノ二』をひとしなみに敎へられねばならぬとは少し具合が惡るすぎるが致し方がない。個性本位の教育など丶議論では云つても、何しろ一人の先生が六七十ものこどもを受持たれて居るのだから、さう云ふことは要求する方が無理かも知れない。二三人しかない自分のこどもを見るだけでも隨分手古摺る母親もある位なのだから、人間わざで相當行きわたつた教育の出來るのは精々三十人止めだと斷定してゐる專門家もある程である。だからお前は過分を求めてはならぬ。

▽父もそこを豫め慮つて讀本の上欄にはローマ字と漢字と英語で新語は一々書き加へて置いた。先生の御授業を妨げない範圍で之が利用を忘れてくれるなよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

▽かうしてお前の知育に力を入れるのはお前が義務教育を終る頃までに、せめて中等學校卒業位な學力を養はせたい下心があるからである。(方法さへ過たねば健康を害するやうな恐は萬々ないと信じてゐる)しかし父を以て知識偏重者と誤解しては困る。知識の價値は決して世間で信ぜられてゐる程あるものぢやない。所詮は道具としての外、役立つものでないのを、何か人生無上の權威者でもあるかにとられて居るので種々の間違がわいて來るのではあるまいか。天理敎祖が『學者とものもち後まわし云々』と歌つてゐるが考へると深長な意味があるやうだ。

▽知識に對する見解がこんな風であるのに尙且餘力ある限りお前に學習させやうとするのは外でもない。他日お前が一人前になつて種々御奉公せねばならぬ社會は、知識が大層普及して來て居るから知識といふ道具を身に具へて居る方御奉公に都合のよいふしもあると云ふだけの事である。又幼少時はこれぞといふ用事もなく精力もあり餘つて居れば大人の仕事の妨げとならぬ範圍で父母なり兄姉なりが相當の力をさき兒童教養に盡すことは神佛の御旨に叶はないこともあるまいと考へてゞある。さればお前も孔子さまの所謂『行うて餘力あれば則ち文を學ぶ』の旨趣をよく辨へで居らねばなりません。

▽されば學校生活についてお前に對する父の願は必ずしも所謂優等生になつて貰ふことでもなければ、又必ずしも所謂善行兒模範兒たる榮譽を擔つて貰ふことでもないことはわかつてくれるだらう。又喧嘩になど負けたとて何の恥なものか。仕掛けられても決して手出ししてはなりません。打たれて歸つても父の心は決して傷みなどはしない。それから考査の點や席順などにくよくよするやうではとても大きな人物にはなれませんぞ。

▽お前は前述の理由で同窓の皆さんより幾分早く知育を受け初めたので、從つて幾分物知りになつて居るかも知れぬが、それは斷じてお前が偉くて皆さんが偉くないといふ證據にはならぬ。誰かとてお前の受けたほどの取扱を受けるならお前若しくはお前以上になれる筈である。されば露ほどもかりそめにも物知り顏してはなりませぬ。物知り顏することは人として隨分恥かしい卑しいことです。

▽先生の仰せには絕對に服從せねばなりません上長に對してはたゞハイと外返事するを許されぬものと心得よ。若し何事でも疑義あらば歸りて父に諮れ。お友達皆さんとは仲よくしておくれ、お友達が困つた時難儀な時お前の全力お前の總ての持ち物を以て救助するの覺悟を常に忘れてはなりませぬ。例へばその爲めにお前の身に萬一のことが起つたとて父は悔いませぬ。お前の鞄には『汝ノ友ヲ愛セヨ』と書いて置きました。

▽では、行いておいで！父も托鉢にいそしみませうよ。

『幼な子を法爾のまゝに培ひて
人天の師と化すよしもがな』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

病める青年

三石勝五郎

天香さんが
御茶ノ水女子高等師範へ
講演に呼ばれて行く朝であつた
師のお宿の
小此木邸は本郷元町の堀端通り
電車線に沿ひて
キラ〳〵光る秋の日をあびながら
土ほこりの中を
無帽粗衣の師の後を
ぞろ〳〵と女も男もついて行く
中に一人の肺を病む青年がゐた
顔は青くふくれあがり
痩せた軀に此の世の姿はうつらない
「天香さん
私はいかゞ致したものでせう」
「轉地の必要もありますまい
私の眼から見ると、あなたは少しも病人と云ふ
仲間に入らない」
一同傾聴する
青年は頭を垂れて默つて歩いた
「外に問題がありますか」
青年は何と答へてよいかわからぬらしく
資産家の長男で、ぜひこの子を健全にさせなくてはならないと
身内の者が附添してゐる
「では死を怖れますか」
天香さんから逆にたづねられて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「怖れます」
と、きつぱり答へた眼には死の影がさしてゐた

お丶怖れるものと
怖れないものとの境界線に
悟入の海が青白く横たはり
チラ〳〵と波間に煩惱の吐息はあがる

「こわい？
そこを通りぬけなさい」

「どうすれば
こわくなくなりますか」

お丶、路上にはほこり
師はしばし立ちとゞまりて合掌
やがて眼をひらき
「光を拜ませていたゞきませう
神樣も佛樣も同じことだ
何もかもお任せして働らきなさい
さうすれば救はれる」

あわたゞしく自動車が駈けて來た
令夫人を乘せて
見るまに御茶ノ水の校門をくゞる
お丶何處の奧方か
彼等ははでやかに着かざりて
今日の講演をきゝにあつまり
天香さんは路上にありながら
言葉やさしく病める青年を慰めてゐる

お丶、信仰が引張る力
男も女も心から泣く

「信仰は自得するにある」
私はかう思ひながら一所に
土ほこりの中を師のあとから歩んだが
青年は悟つたかどうか
門の入口までついて來て別れて行つた

* * * * * * *

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

獨白

八田勝

三

○

或る日、日暮里の三疊長屋に住む子供が、愛隣園の先生に連れられて平和博見物に行き、終日樂しく遊ばせて貰うて歸る途次、先生が氣の毒相に、

『又お家へ歸るとマッチ箱の中に押籠められたやうで隨分狹苦しい思ひをするだらうね。』

と云はれると、最近母を失うた子供が無雜作に、

『いえ先生、此頃は三疊に父(ちゃん)と二人ですから悠くり眠れます。窮窟な事は一寸もありません。』

と答へたそうである。

私は此の話を聞いて思はず赤くなつた。最低標準の家屋に於て、尙一倍半の擴大を理窟無しに信ずる素直な、無心の言葉の裡に秘めた尊さを平氣で聞き流せなかつた。總てに對して此の子供のやうな心持で居れば、何時も感謝に滿ちた日を送れる事と思ふ。

○

平和博に雜閙する群集の渦巻の中を通る度、墓場を横ぎるやうな寂しさに襲はれる。身心の安住地を求めずして、行樂に日を消すは、儚ない自己僞瞞ぢやなからうか？ 電車に追はれ、自動車に脅かされ、一張羅の着物を臺無しにして、濛々たる砂塵に押合ふ處に、如何して平和の氣分が味へるだらう。武備の存ずる間、眞の平和博はあり得ない筈である。矛盾を感じつゝも、自己の通つた足跡に對しては、何とか辯護しやうとするのは、人間の通性であるが、內省の後見物した事を眞に感謝出來た人は殆んど無い事と思ふ。

私達は心から平和な日に生きない。心から平和博を見物出來る世が望ましい。此の心から永久眞平和を祈りつゝ、纖細い乍ら、一歩一歩、此の東道を辿らせて頂く外、私には道が無い。

○

亡國の怨みは如何に外部的恩惠を施すも決して消えるものぢやない。□□□□の際に於ける如き、暴帝ネロの仕業に等しい殘虐を敢てなしつゝ、不逞を責むるは餘りに勝

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

手ぢやなからうか？『毆らなくちや働かない國民だ』として居る移住者の不當な考へが、眞の愛に打破られない限り征服者的態度を邦人が改めない以上、日鮮人同化の日は永久に來ないだらう。

眞理に背くものは何時か亡ぶる。排日的秘密結社の年々增加する今日、暴に酬ゆるに暴を以てせず、爲政者始め移住邦人の人類愛の目覺めが望ましい。

○

空梅雨を豫想させるやうな、いら〳〵した暑さが、板塀に泌み込んで、噎えたやうな雰圍氣と共に身心を鋭く刺擊する。

トンネル長屋！

それは煤煙に塗れ、雨に曝されて、朽ちかゝつた少さな公設市場を其儘住宅にしたやうなものである。排泄されないで臭つた汚水と、石炭殼がゴロ〳〵して居る路上に、散ばつて居る紙屑や塵埃の中に建てられた、三疊敷三十の一棟！ その中央に唯一つの共同流し場と共同便所が一間の通路を隔てゝある計り。格子にからむ朝顔や、幾鉢かの鉢植が、合法自然とは沒交渉に見える環境に、漸く清鮮な感じを與へて臭れる。工場勞働に傷ついた人、筋肉勞働に疲れきつた人、營養不良の青白い顏、あらゆる病毒の所有者……流し場附近を掃除させて貰ひ乍ら、

『自他一體感から、財産に應じて引取られゝば、立ち所に細民は無くなるのだがな……』

と單純に考へてもみた。それから宣光社の具體化に思ひは移つて行つた。

○

人にかこつけて、自己を轉護する、最も卑怯な男らしくない、醜い心持が、未だに消えない私を何卒御赦し下さいまし。

○

輕蔑したやうな眼に遇ひ、橫柄な言葉に接する時、皮肉な丁寧さを意識せずに、詫び切れない私を何卒お赦し下さいまし。

○

當番の名に隱れて、無意識に人を裁いて居る不遜の態度を、園の立場を、自力で理解して頂かうと、時には努めてはつとする愚かな私を、何卒御赦し下さいまし。

○

幼子に敎へらるゝ處多きを知り、幼子に仕へる可きを口にしつゝ、尙文字通りに、下座につき得ない私を何卒御赦し下さいまし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

道德的要求と個我及び人格

中桐確太郎

一

私は本誌前號に於て、道德的要求の根本的要素は、自他一體感を具體的に顯彰せんとするの要求、即ち愛の要求であることを述べ、且つ道德的要求の副次的要素の一つとして、團體生活の維持を數へ、團體生活を維持する爲には、現今の如き精神生活の程度に於ては、權力の行使を許容せねばならぬことを述べ、權力の行使が、權力行使者の我執によりて遂に專制主義に墮し、その弊の及ぼす所、團體生活本來の目的たる自由を全く犧牲に供するに至りますれば、個人自由の要求は反撥復興し來るものであることを申述べました。そして其の末尾に於て、此の自由に對する要求及びその結晶ともいふべき個我の主張、人格の尊重等もまた道德的要求の主もなる要素となり來るものであると申し添へておきました。私は本號に於て、此等のことにつきて少し許り、卑見を申上げて御批正を仰ぎたいと思ひます。

自由の要求が復活再興するに至りまする由來は誠に興味深き歷史研究の題目でありますが、今は此等の敍述に入ることは出來ません。只團體生活維持の弊害が自由の要求を喚起し來る次第を回想するために、歐洲に於ける歷史上の事實を一二瞥見指摘するに止めたいと思ひます。

亞細亞の西隅に起りました基督教が、當時の世界の中心大都たる羅馬に入り、漸く世界の人心を支配するに至りましたがその頃、北方の强者の侵擊に遭ひ、武力に於て敗れ、世界統治の權勢を全く失へる羅馬人士は、今し軍服を脫して黑き僧衣を纏ひ、數百年來、練磨し來れる政治的手腕を宗教界に用ひ、以て再び世界統治を試みんと致しましたるものが、即ち羅馬教會であると思ひます。羅馬教會の名の下に統治せられつゝある宗教的團體生活を維持せんがために、精神界に加へ

られたる壓制は所謂西洋中世紀の暗黑時代を現出するに至つた主もなる原因であらうかと思ひます。羅馬敎會は精神界を據とするものでありました丈に、取り別け、思想信仰の上に加へられたる壓制は甚だ著るしいものがありまして、哲學はありましても、所謂る『敎會の下婢』又は『神學の奴僕』であつて、たゞ敎會が制定せる敎理信條の說明論證を事とするに過ぎぬことゝなり、良心の權威も信仰の自由も全然無視せられ、少しにても新說を唱へ、異論を挿むものは、悉く異端邪見として排斥せられ、遂にはかの耻づべき免罪符の辯護をさへ敢てするに至つたのであります。

かゝる精神界の壓抑專制に對して先づ自由の要求を唱へたものは、學問の研究でありました。所謂る古學の回復や、新哲學の勃興などもこれでありませう。また眞理は敎權によるべきにあらずして觀察と實驗とによりて得らるべきものと唱へ啻に唱ふるのみならず、之を實行しました爲に、種々の研究發見相次いで起り、科學史上に一新時機を開くことになりました。次いで起りましたのが、信仰の自由に對する要求でありまして、端を內觀體驗を主とする神祕說に起し、遂に敎權を排斥し、自己の良心によりて立たんとする宗敎改革運動となつたのであります。

宗敎改革と結托して、羅馬敎會の鐵腕を脫却せる西歐諸國家は孰れも政治的團體生活でありますが、その維持のために必要なりとせられたる權力の行使は遂にその偏重の弊をあらはし、或は『朕は國家なり』といへる傲語となり、或は貴族階級の驕慢橫暴となつたので、民權自由の要求は其の反動として勃興し、英國大憲章の創定となり、また米國の獨立、佛國の大革命を惹起し、立憲政治の基礎が定まるに至つたのであります。

立憲政治の由來に伴ふ緣故からして、參政權と納稅額とは離るべからざる關係を有することゝなり、有產階級の我執は種々の弊害を釀し、經濟界に於ける諸々の變動を惹起し、所謂勞資問題の紛擾は社會をして不安の狀態に陷らしめ、遂に國家といへる團體生活に代ゆるに、新たなる團體生活を以てせんとするものさへ生ぜしむるに至つたのであります。

また經濟上の變動に伴ふ生活難は、婦人をして從來の地位に安閑たらしむることを許さず、遂に職業を戶外に求むる者漸く多くなりました爲に、經濟的獨立の資格を有するに至り、加ふるに著しく進步せる敎育の恩惠に浴するを得るに至り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ました結果は、婦人の自覺を促がし、兩性の關係や家庭の組織にまでも變動を及ぼすべき所謂婦人問題を惹起し、勞資問題こ相呼應して所謂過激思想を煽揚し、現下、人心を動搖せしめ、社會を恐慌せしめつゝあることは周知の事實であります。

以上は只歐洲歷史の一面を回想指摘せるに過ぎぬものでありますが、要するに團體生活の維持に必要なる權力の行使がその度を失し、その弊を生ずるに至りますこ、諸方面に向つて自由の要求が復興するのであります。これは團體生活本來の目的に復歸せんこするものであつて、當然の要求であるこ思ふのであります。諸種の自由の要求は諸種の性能の活動發展を妨碍せられたるに對する反撥でありますが、諸種の自由の要求が、統一せられて自覺せらるゝ時に個我の主張こなるのであります。これが更に精神的色彩を帶びて來る時に、所謂人格の尊重こなつて來るのであります。然らばこれが道德的要求こなり來る所以は如何なる所に存するのでありませうか、これについて少しく考へて見たいこ思ひます。

二

一體個我、若しくは人格こは何でありませうか、顏回が、『舜何人ぞや』『彼も人なり我れも人なり』こいうた言葉の中にも此意義は可なり明かに存在してをるのでありますし、また孟子が申しましたやうに、獨り賢者是心を有するに非ず、人皆之を有してをるのであります。『一簞の食、一豆の羹、之を得れば則ち生き、得ざれば則ち死す。しかも嘑爾こして舌うちしながら、之を與ふるならば、道行く人も之を受けず、蹴爾、足にてふみこばして之を與ふるならば、乞人こいへごも之を受くるをいさぎよしこせざるなり』こは古今東西の人情でありまして、個我の主張、人格の尊重は此中に活躍してをるやうに思はれます。

しかしながら、我こは何ぞや、人格こは何んぞやこいふここになりますれば、是は千古の大問題で、その實相、その眞義は決してさほごに明かになつてをるこいふここは出來ぬのであります。我は此肉體の内にまた精神の活らきの中に存すこせらるゝが常でありますが、汗こなり、垢こなり、大小便こなりて絕えず新陳代謝しつゝ、あるものそれ丈けが、我こ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

いふことも何となく物足らず、また昨非今是、泡沫夢幻、雲の如く影の如くたえず變轉しつゝある心象そのものを直ちに我なりといふことも首肯し難きやうに思はれます。我が肉體、我が精神と申す所よりすれば、肉體精神以外に我があるやうにも思はれます。さればというて自分の身神を外にして何處に求めやうもございません。要するにわからぬのでありますが、我の活らきそのものは直感することの全く出來ぬのではありません。所謂る欲求が單獨に活らく時は、我そのものがそのうちに活らきつゝあるを感じます、しかも二個以上の欲求相爭ふ時、我は種々に進轉するを覺ゆるのでありますがそれらの經驗によりて、恒久不變の我はいつも良心の滿足に伴ひ、道德的要求の實現に自我の充實感が存することを知るのであります。このことにつきては前號にも申述べておきました。

我はわが肉體及び精神によりて限らるべきものでないことは、自他一體感を體驗せる時に、即ち、純なる愛を經驗せる時に、直證することが出來ます。愛の經驗に於ては、我は自分の身心を唯一の根據とせる地位より進轉して別なる生命に入るのであります。即ち自分の肉體及精神を犧牲にすることによりて、我は滿足を感ずるのが是れであります。もし此經驗を擴め、我執の囚縛を脫して、一切他と一體たるを感ずるを得る時ここに一大新生命に入るを感ずべきことは察するに難からざることゝ思ひます。併しながら一切他と一體なることを感じて體驗し得たる生命の感は、譬へば宇宙に遍滿する太陽の光線の如きものであつて、只明るいといふ感じでありませう。この所謂無碍の光明が或る物體に觸れて鮮やかなる色彩の光となるが如く、一大生命が自分の身神の中に活らき來る時、こゝに我甦生れりといふ實感を體得するのでありませう。大死一番といふは此甦生りの因にして、新生は此大死の果ともいふべく、否むしろ兩者は表裏の如き關係にありと申してもよろしうございませう。かくして新たに生れたるものこれ所謂る赤肉團上の眞人で、眞との我が始めて生れたるを感ずるのでありませう。かくして生れ出でたる我は生死を超越し、貧富によりて汚れず、榮辱によりて累はされざるものでありますから、そこに無限の尊嚴さを感ずるのでありませう。釋尊が降誕せられたる時、裸體のまゝ直立して、一手天を指し、一手地を示し、天上天下唯我獨尊と仰せられたさうでありますが、菩提樹下に端坐、曉の明星を見て大悟徹底せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

られたる時も、多分同様の御感じがあらせられたことでありませう。基督が猶太人に答へて『誠に實に汝等に告げん、アブラハムの生れざりし前より我は在りし也』このたまひしも亦同樣の境涯ではありますまいか。人格の尊嚴は只此の如き體驗に於てのみ感ずることを得るのであらうと思ひます。眞との尊貴がそれ自身のうちに存するのでありますから如何なる卑賤と思はるる職業に從事するにいたしましても、少しも後目たく恥かしなど思ふことはありません。恰かも富有の人が粗末な衣服を着ても恥かしいと思はぬが如き心持ちでありませう。否却てその尊き人格の光によりて世にも卑賤と思はれし職業も尊貴なる光を發するものでありますことは、乞食婆さんの仕事と思はれし看病の仕事が、ナイチンゲール女史の人格によりて今は一天萬乘の君に配したまふやんごとなき方さへその仕事着を召してそれに光榮を感じさせたまふまでに尊貴なるものになつたのであります。

私は此の如くにして生れたるが眞正の個我であり、此の如くにして體感せらるゝが眞正の人格の尊嚴であると思ひます此の如くにしてとは即ち一切他と自分との一體感を自分の身神に即して體驗することであります。一切他との一體感を具體的に顯彰せんとするが道德的要求の根本要素といたしますならば、此の如き意味にての個我の完成、人格の尊重が道德的要求に深き關係を有することも明かなることゝ思ひます。

それ萬有一體感は凡ての者に潛在的に存在してをるものでありますから、如何なる人にも個我の存在を主張し、人格の尊嚴を保持せんとする要求の存すべきは自然のことでありまして、それがまた、道德的要求となつて活躍し來ることも當然のことでありますが、只此際お互に警戒せねばならぬことは、個我の主張には我執の要求が混同し來るのみならず、却てそれが主要なる動因となり、また人格の尊嚴といふも、實感の伴はぬ人まねの空言にとゞまり、私欲の執着の方便として之を利用するが如きことのなからんことであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

□玄光社から　大正十一年五月五日、東京市外戸塚町上戸塚五八〇藤井悌氏宅に創設されてから、月々五日の夜に例會を開いてきました。ほんものを産みだしたいと祈つてゐます。社の趣旨に共鳴の方は例會に御出で下さい。御參考までに社の申合を御知らせしませう。勿論、暫定です。

玄光社申合（暫定）

一名稱　假りに玄光社と名づく。

一同人　捨身奉仕の心を以て社會聖化のことに參ずる有緣の衆を同人となす。

一事務所　當分東京市外戸塚町上戸塚五八〇に置く。

一會合　毎月五日同人相集り講究會を催す

一行持　同人は一ヶ月の中一日は必ず奉仕生活の體驗に勤むべし。

一清規　同人は敬虔の心を持し人類を愛すべし、同人は善事を爲すに勇猛なるべし同人は苟くも我の爲めに爭はざるべし。

一事業　差當り文書を以て啓蒙運動をなす讀物の選擇推奬をなす。社會問題に關する意見を發表し輿論を喚起す。（松下生）

□京都宣光社から

一、いつの月も遅れ勝ちで讀者諸氏に何とも申譯御座いませぬ。五月號は二十日に東京を發送したのでしたが鐵道事故の爲か廿八日の正午に到着いたしその夜九時に本局より發送すべく持參いたしました處表紙の裏に「光」の活字が無いとかで三種として扱ふ事は出來ないと折角骨折つたのも水の泡……少しく同情して受取つてくれてと思ひましたが、或一人の局員の爲に舞戻の餘義なき憂目を見ました他の局員の同情の聲を聞きつゝ……私等一同はおかげ樣で先方に對し口論もせずに引返した事を難有う感謝しました。翌朝六時半全部に「光」の活字を押捺いたし無事發送。延びた上に延びて何とも申譯御座いませぬ。尚いつも發行日後皆樣から發送未發送の御問合せに對して充分に御返事いたさずに參りました。一兩日間に發送いたせる時は御返事を控へて居ります此邊も御承知下さい。

一、住所御變更になりました時は恐入りますがすぐ御通知被下さいませ。四月分の附箋付き舞戻も大分御座います。御受取りでないお方は御申越し被下い。

一、御申込の御方で二十錢丈御封入一部見本として送れと云ふのと、ハガキにてあとより送金するから……と云ふのに對しては一部丈を御送りいたし引續き發送はいたさぬ事に致して居ります、引續き御愛讀被下る御方は翌月發送頃迄に御送金被下る樣御願ひいたします。

一、去る三月と五月とに御送金なき方の發送を中止いたしました、御ひまな御方は中止してくれいとの御通知に接しますが大部分は中止の通知も無く御送金も無いので（三ヶ月間振替用紙封入いたしましたが）御讀み被下らぬものとして中止したのです不惡。

一、御送金は振替を御使用被下度と存じます、切手は出來うるなれば御許し願度い尚御送金の節は振替の記載欄に恐入りますが新舊がすぐ判る樣に「新」とか「舊」とか一字御記入願ひ度いと存じます、すまぬことですが。

一、時々發信人のない御送金を受ける時が御座います、雜誌を御送りいたし度いにも致せませぬ、三月以來前記いたした樣に中止した分が多くありますので……恐入りますが無記入の御送金のお方は一寸御通知願度う御座います。

一、尚軍事郵便爲替にて御送り被下る御方もその時に一寸別に御手紙をいたゞき度いと存じます。

一、尚「光」は二號より三、七、八の外全部御座います御入用の御方は御申越し被下いませ。創刊號はモウ二ヶ月もたてば出來ることゝ存じます。

一、いつも遅れ勝ちで皆さんに對してすまぬ事です、こちらの都合のよい事のみ御たのみいたして申譯ありませぬ御許し被下いませ。

一、尚五月號の帶紙に「前金切」の印鑑捺印させていたゞきました、（一二ヶ月間前から切れてある分と五月分で切れる分とに對して）これも御愛讀者から金がきれたら知らせとの御注意の御方が多いので五月から捺印させていたゞきました。

大正十一年七月十四日印刷（代金二十錢）
大正十一年七月十五日發行（郵送料不要）
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行兼印刷人　中桐確太郎
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
印刷所　株式會社一匡印刷所
發行所　東京宣光社
京都市柳ノ馬場三條下ル
宣光社
振替大阪五九八三九番

橋井孝三郎著（最新刊）

仰臥五年 奇蹟に生く

□獄中記病牀信仰篇□

維れ、命旦夕に迫れる著者が血淚を以て綴りし一個高貴なる人間記錄也。暗慘たる牢獄生活と不治の病を通じて宗教に入れる魂の過程の表示也。嗚呼此の極度の忍苦、不壞の信仰、正に現世のヨブ記の稱に値せずや。

▽前年豚箱事件として天下の耳目を聳動せしめし京都府市の疑獄は、なほ世人の記憶に新たなるものあらん。著者は少壯政治家として頗る前途を囑目せられし人、偶々政敵の嫉視を受けて此の疑獄に連座し罪なうして縲紲の辱を受くる事再度、止んぬる哉、此獄中に於て惡性の肺結核に襲はる、所となりぬ。幸に法は著者の身の靑天白日を證したりしも、病は遂に癒えず、廢人として仰臥する事滿五年！

▽既に喀くべき血、痩すべき肉なく、枯木の如き殘骸なれども、肚裏一片の赤心抑ふべからず、病苦を忍んで此の一書をなす。戰慄すべき獄中の見聞記、同情の淚を絞る病牀の感想、法悦に溢ふる、信仰生活の告白——之を點綴するに痛烈なる社會批評あり、裁判權否定の辯あり、慇懃なる妻子への遺訓あり、慘話、哀話、悲話、歡話頁を繰り、章を追ふに隨つて展開す。最近出版界に異彩を放つべき一書として敢て大方の批評を乞ふ。

上製本綴 美本
定價 金貳圓參拾錢
送料 金拾六錢

圖書目錄 進呈

東京神田表神保町

春秋社

振替東京二四八六一
電話神田二一三八

京都 東寺濟世病院長・ドクトル 小林參三郎著

生命の神祕

四六版三百二十頁
着色版一葉
凸版十數葉
英國特製布表紙

定價金貳圓
送料金拾四錢

不治の難症に悩む者此新福音に聽け。科學を偏重して人間本具の生存力を無視せる現代醫學の缺陷を剔抉し、故岡田先生の遺業靜座法を醫術に應用して、幾多の患者を救濟せし新研究也。

▼本書の著者は永く英米獨にありて科學的醫術の蘊奥を極めたる人、嘗て自ら不治の難患に苦める時、一僧侶の法話を聽いて豁然大悟する所あり、幸にも偶々九死に一生を得て、生存力の秘密を躬自ら體驗し、玆に主客圓融、科學と宗教との合致したる醫界 Epoch-making の療法を發見したり。後年故岡田先生につき靜座法を修得して益々所信を確かめ不治を宣せられし患者を再起せしめたる事數千人に及ぶ。而して衆望の歸する所、眞言宗東寺派の濟世病院に推されて長たる事十年也。

▼心身に憂ひ悩みある者、將に大手術を受けんとする者、不治の宣告を受けて生存の意義を見失へる者、速に本書を一讀せよ。生存力と醫術とを合致せしめ、靜座を基礎としたる新療法によりて、幾多不起の患者を全癒せしめし實驗談とその方法とは、極めて平明に解説さる。

目次

總論、本論、（一）神經衰弱症 （二）暗示暗示感覺自家暗示 （三）婦人科病、（四）慢性胃病、（五）心臟病、（六）思ひより身體に起る病、（七）肺結核、（八）近親者の看護は結果惡し、（九）腸の慢性疾患、（十）喘息、（十一）慢性腎臟病、（十二）蓄膿症、（十三）子宮筋腫、（十四）脫腸、（十五）泌尿症、（十六）子宮脫、（十七）痔瘻、結論、靜座法、

圖書目錄進呈
東京神田表神保町
春秋社
振替東京二四八六一
電話神田二一三八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN